

～川崎キ5陸軍試作戦闘機(Ki-5)



【同年代の海軍機である
9試単座艦上戦闘機と→】

川崎飛行機が製作した本機、キ5試作戦闘機は日本陸軍初の低翼単葉機になるかもしれない試作戦闘機です。逆ガル形状の主翼を有しており、1934年1月に初飛行しています。同じ逆ガル戦闘機である三菱9試単座戦闘機は、1935年1月には初飛行していますから、ちょうど1年早く世に出た飛行機です。設計者は、それまで川崎の設計陣を率い、同社の礎を築いたリヒャルト・フォークト博士でした。単に単葉機というだけでなく、逆ガル形状の主翼を採用したのは冒険だったと思いますが、これが凶と出て、安定性が悪くなり正式戦闘機として採用されませんでした。フォークト博士の愛弟子に当たり、後日、99軽爆(Ki-48)や飛燕(Ki-61)などの多くの傑作機を設計する土井武夫氏の著書によれば、テストパイロットは「ちょうど曲芸師が玉乗りをしているようだ」と評したそうです(『飛行機設計50年の回想』酣燈社)。フォークト博士は、この機体を設計するとすぐブロームウントフォス社の共同経営者に迎えられますが、この機体が完成したのは、フォークト博士の帰国後でした。

【模型について】

ポーランドのコロジー(Choroszy)製の1/72レジンキットです。同社のスタンダードで、主要パーツはしっかりした出来で、細かいパーツのエッジも繊細で、苦勞なく完成させることができました。

(中川裕幸 2022年8月)